

市町村職員向け 通信研修モデル事業の結果報告

TAC株式会社

目次

- 01 モニタリング実施概要 3
- 02 通信研修モデル事業の実施について 4
- 03 アンケート回収状況 5
- 04 任意アンケート集計結果（基礎編） 6
- 05 モニタリング結果報告（基礎編） 7
- 6 任意アンケート集計結果（実務編） 10
- 7 モニタリング結果報告（実務編） 11
- 8 モニタリング結果と修正方針概要 15
- 9 具体的な修正方針 16
- 10 修正方針（基礎編） 17
- 11 修正方針（実務編） 19

1 モニタリング実施概要

■ 平成26年11月下旬より以下のとおりモニタリングを実施した。

(モニタリングの目的)

- 1. 研修の基本コンセプトは市町村年金窓口担当者の研修ツールとして妥当であるか確認すること
- 2. より良い研修とするための改善点を明らかにすること
- 3. 実務編研修に取り入れるべき窓口相談事例が何であるか明らかにすること

	重点ヒアリング市町村	任意アンケート
実施対象	厚生労働省指定37市町村	全1,741市町村
期間	平成26年12月12日～平成27年1月中旬	平成26年11月26日～平成27年1月9日
方法	・以下の各研修教材を対象市町村へ送付 －講義DVD（基礎編・実務編） －紙上Live講義（シナリオ集） －逐条解説テキスト －講義スライド －通信研修モニタリング実施の手引き	・以下の各研修教材を厚労省特設HPに掲載 －紙上Live講義（シナリオ集） －逐条解説テキスト（PDF） －講義スライド －通信研修モニタリング実施の手引き ・窓口での業務の合間でも見られるように、講義を紙面上に表現した「紙上Live講義」を作成・配布 ・完成形のイメージを確認いただくため、実際の講義動画の一部をYouTubeに掲載
調査方法	・個別ヒアリング調査	・アンケート調査（回答は任意）

2 通信研修モデル事業の実施について

- モデル事業として厚生労働省のホームページに掲載し公開した教材は以下のとおりである。
- 当初予定していた一部教材について、制作の遅れからモデル事業内での公開はできなかった。

No.	テーマ	研修の概要	講義映像	紙上Live 講義	逐条解説型 基本テキスト					
1.	国民年金ダイジェスト①	社会保険制度、適用関係	—	○	1章	2章	3章	4章	5章	6章
	国民年金ダイジェスト②	給付関係	—	○	1章	2章	3章	4章	5章	6章
2.	被保険者	強制・任意加入被保険者	○	○	第2章					
3.	資格取得・喪失	資格取得・喪失の時期	—	○	第2章					
4.	被保険者期間・届出	期間計算、種別の変更、届出	—	○	第2章					
5.	保険料・免除①	保険料の算出・納付方法、免除制度	—	○	第6章					
	保険料・免除②	免除と猶予、追納、後納	—	○	第6章					
6.	老齢基礎年金①	支給要件、合算対象期間	—	○	第3章					
	老齢基礎年金②	年金額、振替加算、繰上げ・繰下げ、失権	—	○	第3章					
7.	障害基礎年金①	支給要件、事後重症、基準障害	—	○	第3章					
	障害基礎年金②	20歳前傷病、経過・特例措置、併合認定	—	○	第3章					
	障害基礎年金③	年金額、子の加算額、支給停止、失権	—	○	第3章					
8.	遺族基礎年金①	支給要件、遺族の範囲、年金額	—	○	第3章					
	遺族基礎年金②	年金額の改定、失権、支給停止	—	○	第3章					
9.	独自給付	付加年金、寡婦年金、死亡・脱退一時金	—	—	第3章					
10.	未支給・生計維持	未支給年金、生計維持	—	—	第3章					
11.	時効	基本権及び支分権の消滅時効	—	—	第8章					
12.	不服申立てその他	審査請求、事務の委任	—	—	第7章～第9章					

No	テーマ	使い方	ケーススタディ	講義映像	紙上Live 講義
1.	加入・喪失・各種変更	お手続きガイド 使い方	会社を退職したとき	○	○
2.	免除・納付猶予	お手続きガイド 使い方	保険料の支払が困難なとき	—	—
3.	老齢基礎年金	お手続きガイド 使い方	65歳で老齢基礎年金を請求するとき	—	○
4.	障害基礎年金	お手続きガイド 使い方	障害認定日による請求のとき	—	○
		「障害基礎年金受付・点検事務の手引」		—	—
5.	遺族基礎年金	お手続きガイド 使い方	(子のいる配偶者の場合)	—	—
6.	未支給年金／寡婦年金・死亡一時金	お手続きガイド 使い方	① (死亡一時金／寡婦年金の請求) ② (未支給年金の請求)	—	—

公 開

3 アンケート回収状況

- 実施期間：平成26年11月26日～平成27年1月9日
 - ・ 平成26年11月26日より順次モニタリング用教材を公開し、指定のアンケートフォームにて回答いただいた。
- 回答数：61市区町村
- 都市の区分と年金窓口担当者数による区分
 - ・ 回答いただいた市町村を都市の規模、及び年金窓口担当者数により区分すると下表のとおりであった。各区分の市町村より回答いただいており、全市町村の都市区分と比較して際立った偏りはない。

都市区分	回答	1人	2～5人	6人以上
政令指定都市（20）	2(7)	-	-	2
中核市・特例市（83）	1	-	-	1
東京都特別区（23）	2	-	-	2
人口5万人以上（439）	26	1	14	11
人口5万人未満（1,176）	30	5	22	3
計	61(66)	6	36	19

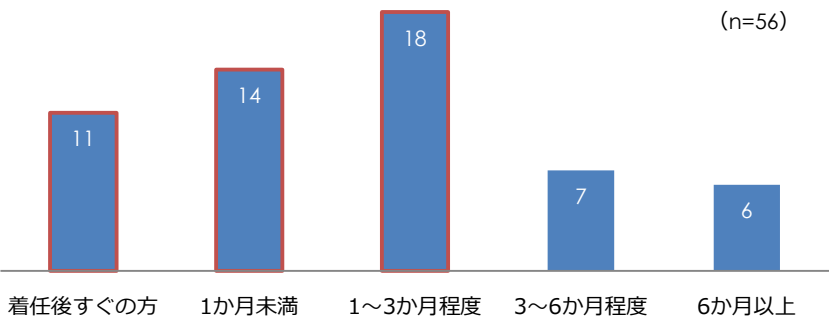
※政令指定都市の1市について6区より個別に回答があったが、集計時にはそれぞれ別個の回答として取り扱う。

※窓口担当者数はアンケートの回答より区分した。

※政令指定都市のもう1市について担当者数0との回答だったが、“6人以上”に分類した。

4 任意アンケート集計結果（基礎編）

■ 対象となる受講者について（窓口担当者の上位者の方からの回答）



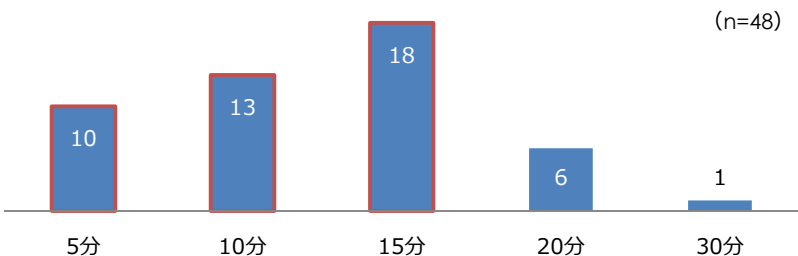
• 着任後すぐ〜3か月程度までの担当者に受講させることが適当との回答が約75%となった。

■ 解説ナレーションのスピードについて（窓口担当者の方からの回答）



• ナレーションのスピードは、「ちょうどよい」の回答が約85%となった。

■ 1 講義あたりの動画の長さについて（窓口担当者の方からの回答）



• 1 講義あたりの長さは、15分以内が適当との回答が約70%となった。

5 モニタリング結果報告（基礎編/ダイジェスト）

- 基礎編研修について肯定的に評価する意見を多数挙げていただいた。個別の箇所については改善の要望や誤りの指摘を挙げていただいたが、基礎編研修の作成方針や必要性を否定する意見はなかった。
- 図表などのスライドを用いて要領よくまとめた文章による解説が高く評価された。根拠法令に基づいた解説、具体例を示した解説について肯定的な意見が目立つ。

肯定的意見（例）	改善要望（例）
ダイジェスト版 ■ 国民年金事務を行ううえで必要な知識が簡潔に示されている点。他のテーマのケースごとの説明も分かりやすかった。 ■ ダイジェストだけでなく、全般的に文章だけの説明でなく、図入りが理解するのに役に立ちます。 ■ 初任者にとっては、<u>年金制度に関して分かりやすく書かれており、とても参考になる</u>と思う。 ■ 国民年金の被保険者の具体例が記載されており、出前講座等で市民にわかりやすく説明できる資料になっている。 ■ すべてのテーマに、図解と根拠法令が併記されているので理解しやすい。 ■ <u>制度のあらましや国と市町村の関わりなどに触れられており、新任者が読むのに適している</u>と思う。	■ 被保険者資格の取得や喪失ではなく、種別変更という概念になる。とあるが、事務センターでの照会電話では再取得・喪失で得喪を確認しているため混乱する。もう少し具体例を書いて欲しい。 ■ 経験の浅い職員が対象なので、法文や専門用語を載せるよりも、もっと<u>安易な言葉で解説をした方が良い</u>と思われる。まずは年金制度の全体像を理解してもらうことが大切。 ■ 受給権給付通則については初心者にはかなり難しく、簡略化したほうがよい。

5 モニタリング結果報告（基礎編/適用・免除）

- 具体例を用いた説明やテーマごとの確認問題について好意的な意見が多く、ダイジェスト版と同じく図表による解説も評価された。

肯定的意見（例）	改善要望（例）
適用編 ■ 免除申請は、手続きに来庁される方も多く、問い合わせも多い申請であり、いろいろなケースで説明されておりわかりやすい。 ■ 文章だけでなく、図や例の記載があり、わかりやすくコンパクトにまとめられていて良かったと思います。 ■ 制度の背景までわかりやすく書かれているので、理解しやすいです。<u>「年金を受取るつもりがないから保険料をおさめたくない」という方がいらっしゃいますので、その際の説得材料が載っていて参考になった。</u> ■ 確認問題を通して自分の内容理解度を確かめられる点があった。 ■ <u>保険料の定義から使途まで解説してあり、基礎的な常識を得られるので、初心者にとって事務が身近に感じられる</u>と思います。 ■ 各制度の背景や趣旨がわかりやすく解説されており大変参考になる。 ■ <u>外国人が加入した際のメリットが具体的に示されているのは、窓口で応対する時、役立つ</u>と思った。	■ 学生納付特例制度の所得基準について、<u>説明文のみでなく、表で掲載</u>してほしい。 ■ 年金手帳の使い方も説明にあった方がいいのではないのでしょうか。 ■ 強制加入者の種類と要件について簡潔にまとめた方が良い。

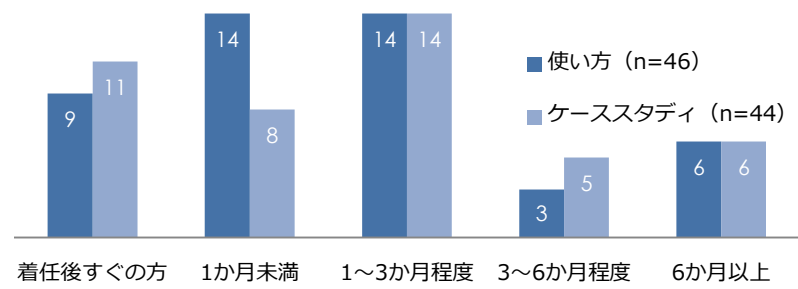
5 モニタリング結果報告（基礎編/給付）

- わかりやすい文章構成や視覚的な図表による解説が評価された。一方で、障害基礎年金など初任者には難しいとされる意見も少なくなかった。

肯定的意見（例）	改善要望（例）
給付編 ■ 内容が多くイラストを通して視覚的に効率的に伝わる こと。 ■ 最後の部分で、制度についての理解を深めるために、 「Q&A」が設けられていた。 ■ 基本年金額や満額でない年金額の説明など比較的わかり やすかったように感じました。窓口の対応でも、比較的 多い業務なのでより詳しくまとめられているのは<u>説明時 や対応する際に役立つと思います</u>。 ■ 失権、配偶者および子に支給する年金額について、分か りやすく記載している。 ■ 国民年金のみの満額受給のケースだけではなく、様々な 受給についても触れられており、参考になると思われた 点。 ■ 振替加算の説明がわかりやすい。免除された部分の支給 に関する説明がわかりやすい	■ 障害の程度について、具体的にはどのような状態なのか 理解するのはむずかしい文面です。身体障害者手帳の等 級とよく混同される年金の障害等級についてはわかりや すくてお客様も納得する説明が初心者には必要と思いま す。 ■ 合算対象期間については事例が少なく年金制度の変遷と もからむので<u>初心者にとっては理解できにくい</u>です。 ■ 読みやすい解説になっているものの、制度自体が複雑な ため、<u>新任者では一語一句にひっかかってしまうように 感じた</u>。用語集や索引を付けてもらえるとより理解しや すくなると思う。 ■ 基礎編では市町村で預かる請求書の書き方やその項目意 味、添付書類（なぜ必要か？まで記載があるとお客様に 説明しやすい）を盛り込んでほしい。 ■ 繰上げ請求・繰下げ請求をする時の注意点などについて、 より深く解説してほしい。 ■ 合算対象期間の説明については、もう少し簡略化しても よいのではないか。

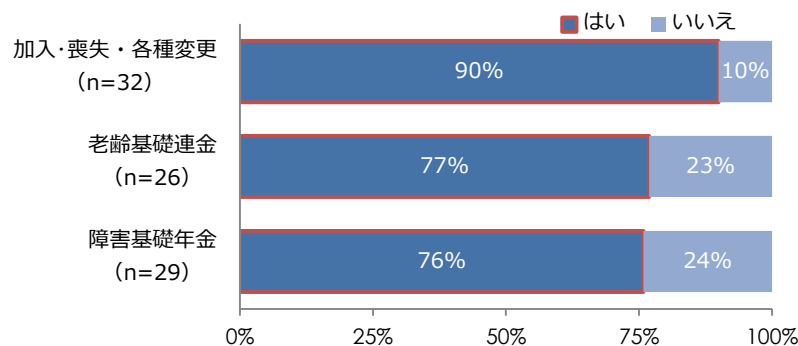
6 任意アンケート集計結果（実務編）

■ 対象となる受講者について（窓口担当者の上位者の方からの回答）



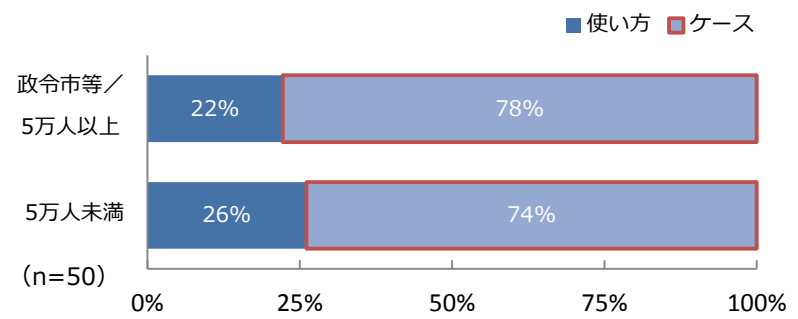
- 「使い方」「ケーススタディ」とともに、着任後すぐ～3か月程度までの担当者に受講させることが適当という回答が7割以上となった。

■ 「使い方」研修で業務支援ツールが使えるようになるか（窓口担当者の方からの回答）



- 「使い方」研修については、多数の市町村より「使えるようになった」「使えるようになると思う」という回答を得た。なお、「使えない」と回答した16件のうち、1件を除いてすべて政令市等または5万人以上の市町村だった。

■ 「使い方」と「ケーススタディ」どちらを重視するか（窓口担当者の上位者の方からの回答）



- 業務支援ツールが使えるようになるためにより有効な研修は「ケーススタディ」だと答える市町村が7割以上となった。

7 モニタリング結果報告（実務編）

- 実務編「使い方」については、全般的なわかりやすさや、説明時の注意点や対応の流れがわかるという点が評価された。
- 一方で、使用シーンをチャートで説明してほしい、お手続きガイド以外のツールを説明してほしいという意見も一部あった。

	使えるようになる	使えるようにならない
加入・喪失・各種変更	■ 業務支援ツールの内容に沿って事細かく注意点を指摘しており、基本的なことはある程度網羅されていると感じた。 ■ <u>説明する際の注意点等がわかりやすく説明されている。</u> ■ 初めて担当となった者でも参考にしながら事務ができるような内容であった点。	■ 「使い方」での20歳到達前に手続に来られた方への対応が実際と異なる。「ケーススタディ」の退職による種別変更の表現では、本人の1号取得と配偶者の1号種別変更を混同する。
老齢基礎年金	■ 担当従事者に必要最低限の内容が説明されている。 ■ 業務支援ツールの内容に沿って事細かく注意点を指摘しており、基本的なことはある程度網羅されていると感じた。 ■ <u>来庁者への対応について、細かい点までアドバイスが</u>あってよかった。	■ 請求書記入内容の確認が不安 ■ <u>どのシートをどの場合に使うのか、文章で書かれるよりも一目でわかるチャートのように説明してもらう方がわかりやすい</u>と思う。
障害基礎年金	■ 各項目ごとに説明があり、わかりやすくなっていると思います。しかし、年金制度が複雑なため、初任者が理解して使用できるまでには時間がかかると感じます。 ■ <u>必要書類、説明のポイントが書いてあり、来庁者の方に対して説明もれが減少する</u>と考えるため。 ■ 複雑な手続きについての流れが確認できる点。	■ 請求書記入内容の確認が不安 ■ <u>障害年金に関してはお手続きガイドだけではなく、窓口相談対応票や相談シートなどの記入方法なども具体的に説明したほうが良い。</u>流れはわかるが、ツールが十分使いこなせない。

7 モニタリング結果報告（実務編/加入・喪失・各種変更）

- 実務編「ケーススタディ」については、窓口対応の流れがわかる、具体的な事例がわかりやすい、という点で評価が得られた。
- 研修作成の方向性について修正を求める意見は見られなかったが、講義時間が長すぎる、画面上でメリハリが必要、受付書類のチェック箇所を説明してほしいといった意見や、個別箇所についての修正・追加要望があった。

肯定的意見（例）	改善要望（例）
■ 基本的な事項が網羅されているほか、非常に読みやすい内容となっている。 ■ 初めて年金業務に携わることになった職員の窓口対応の際、一連の対応の流れや、業務内容が理解しやすかった。また、<u>講師の解説や注意する点が必要な場面であるのも良かった。</u> ■ 全般に、年金事務を「ケーススタディ」の形で研修資料が作成されており、解り易い。 ■ <u>「コラム 同月得喪」 一部分を取り上げていて、インパクトもあり、たいへんわかりやすかった。</u> ■ 「使い方研修」を受講することで、「加入・喪失・各種変更」に限らず業務支援ツールの使い方をより理解できた点。 ■ <u>動画の担当者を異動したての初心者に設定したのは親しみが感じられよかった</u>と思います。	■ コラムなどで、海外転出者・海外在住者への説明ポイントにふれてほしい。 ■ 途中で男性が助言する場面に切り替わるのですが、切り替えのメリハリがあるのかないのかよくわからない感覚を持ちました。 ■ <u>動画が長すぎる。</u>もう少し分けて、1編が10分位でまとめてほしい。 ■ それぞれのケース毎に最低限説明すべきことをもっとコンパクトにできないか？現状では説明すべきことが多すぎな感じがする。 ■ 市町村向けの研修であるにもかかわらず、届出書の書式が年金事務所用のものとなっている。市町村向けの統一書式で説明しなければ意味がないと考える。

加入・喪失・各種変更

7 モニタリング結果報告（実務編/老齢基礎年金・障害基礎年金）

	肯定的意見（例）	改善要望（例）
老 齢 基 礎 年 金	■ <u>給付関係は金額に絡むため、ケーススタディがあることにより、対応を想定して学ぶことができる。</u> ■ 全般に、年金事務を「ケーススタディ」の形で研修資料が作成されており、解り易い。 ■ ターンアラウンドの請求書が届いた時点で窓口へ来る方が多いので、この時点で説明した方が良い点について書かれているところが良かった。 ■ 各ケースごとにまとめられており、<u>説明する際の注意点・メリット・デメリットがわかりやすく説明されている。</u>	■ 「ケーススタディ」で請求書提出時の対応についても説明してほしい。 ■ 窓口対応の経験が少ない人向けのケーススタディではないと感じた。請求書の書き方についてのケーススタディがあると良いと思う。繰り上げ請求・繰り下げ請求のデメリットはまとめてあるが、お客様とのやりとりの中で書かれていた方が良いと思う。
障 害 基 礎 年 金	■ 基本を押さえた、一般的な対応がイメージできることがよかった。 ■ 聞き取り、説明が来庁されてから手順よく記載されており、窓口対応の参考になった。 ■ 具体的なケースに沿っての説明があり、わかりやすかった。 ■ 全般に、年金事務を「ケーススタディ」の形で研修資料が作成されており、解り易い。 ■ 予備知識が少なく、経験の浅い担当にも分かりやすい簡易な表現であること。 ■ 支援ツールの内容が良かった点です。	■ <u>障害年金はさまざまなケースがあるので、ケーススタディをもっと充実してもらいたい。</u>せめて、「障害認定日」「事後重症」「はじめて2級以上に該当」の3パターンは欲しい。 ■ 流れはよくわかりますが、相談事例がやや簡略・単純化されている感じは否めません。年金事務所が指導する病歴申したてやその記述、納付要件の確認等はケーススタディではあまり触れられていない。実際の市町村窓口の対応と年金事務所の指導がスライドと乖離している感覚を持ちます。 ■ 「ケーススタディ」では病歴・就業状況申立書の記載内容等、提出書類のチェックのポイントについても説明してほしい。

7 モニタリング結果報告（実務編/取り上げるべきケース）

- 市町村での取り扱いが多い「加入・喪失・各種変更」、「免除・納付猶予」と、対応の難易度が高い「障害基礎年金」について具体的なケースの要望を挙げていただいた。一方で、「老齢基礎年金」、「遺族基礎年金」、「寡婦年金・死亡一時金」、「未支給年金」については特に具体的なケースの要望はなかった。

＜加入・喪失・各種変更＞（9件）

- ✓ 外国人の資格取得のケース（1件）
- ✓ 海外転出のケース（1件）
- ✓ 任意加入者の帰国のケース（1件）

＜障害基礎年金＞（13件）

- ✓ 障害基礎年金の窓口対応全般が学べるケース（7件）
- ✓ 事後重症のケース（1件）
- ✓ 20歳前障害のケース（1件）
- ✓ 疾病・障害ごとの様々なケース（4件）

＜免除・納付猶予＞（7件）

- ✓ 遡及免除申請のケース（4件）
- ✓ 法定免除のケース（1件）
- ✓ 申請免除のケース（1件）
- ✓ 同月得喪時の免除のケース（1件）

＜死亡一時金・寡婦年金＞（1件）

- ✓ 添付書類・申請書の記載方法（1件）

8 モニタリング結果と修正方針概要

研修区分	モニタリング結果 ・ 要望いただいたこと ・ 通信研修ツールの問題点	対応方針
仕様	✓ 基礎編・実務編研修の1 講義時間は15分以内が適当 ✓ 確認問題を増やしてほしい ✓ 重要用語の検索性があると良い ✓ 講義映像での中で重要語句を強調すると良い	✓ 1 講義を15分程度のチャプターごとに区切る。 ✓ 講義収録時間等との調整を図り可能な限り反映。 ✓ 基礎編テキストの索引作成 ✓ 映像スライドにアンダーラインやクローズアップ機能を活用しての重要語句等を強調する
基礎編／実務編	✓ 配属後すぐの新人には難しいのではないかと。3か月～半年程度経験を積んでから受講する教材としては適当。	✓ 受講者の配属先（本庁/支所）など業務属性に合わせた受講モデルケースを提案する。
実務編「使い方」	✓ お手順ガイド以外の業務支援ツールについても説明してほしい。 ✓ どの場面でどのシート（カード）を用いるかチャート式で示してほしい。	✓ あずさ監査法人と連携し、業務支援ツールの制作コンセプトや各ツール(相談シートやチャート式等)の使用場面を想像できる使用ガイドに基づいた研修を盛り込む。
実務編「ケーススタディ」	✓ 診断書や請求書等の記載内容についての説明が不足している。 ✓ 遡及免除で世帯変更や転入があるケースを扱ってほしい。 ✓ 障害基礎年金のケースを増やしてほしい。	✓ ケーススタディの追加及び「障害基礎年金 受付・点検事務の手引き」において説明する。 ✓ 遡及免除のケースを制作し、世帯変更や転入の場合の注意点を盛り込む。 ✓ 要望の多い障害基礎年金についてケーススタディを追加する。

9 具体的な修正方針

（研修動画の仕様について）

- 任意アンケートにおいて、1講義あたり15分以内が適当であるとの回答となった。

→年金窓口担当者として最低限必要な知識を解説しているため、講義自体の圧縮は行わないが、受講のしやすさを考慮して1講義あたり15分以内のチャプターに区切る

（受講モデルについて）

- 基礎編講義について、任意アンケートにおいて配属後すぐの新人には難しいという意見が一部挙がった。
- 一方、重点ヒアリングで基礎編の難しさについて具体的に確認すると、初任者には難しいが3か月～1年程度経験を積んでから受講する教材としては適当との意見であった。
- また、初任者に最初に受講させる教材としては実務編の「ケーススタディ」がよいという意見もあった。
- これは、窓口配属された初任者を簡単な基礎的知識（ダイジェスト版）を学んだあとは、すぐに窓口でOJTによって実務を修得させる（「ケーススタディ」）という現場の教育方針にも合致する。

→受講者の配属先（本庁/支所）等に合わせた適切な受講モデルの提案を行う

（業務支援ツールの制作コンセプト及び使用ガイドについて）

- あずさ監査法人の実施した業務支援ツールのモニタリングによると、各ツールの制作コンセプトがうまく伝わっていないことが明らかとなった。

→あずさ監査法人と連携し、業務支援ツールの制作コンセプトや各ツールの使用場面を想像できる使用ガイドに基づいた研修を盛り込む。

10 修正方針（基礎編～ラインナップ）

- 任意アンケート調査及び重点ヒアリングの結果を踏まえ、基礎編研修は予定どおり以下のラインナップにて制作を進める。
- 最終成果物作成にあたっては、各市町村からの詳細な指摘を丁寧に確認し、講義収録時間が大幅に超過しないようにしつつ、可能な限り研修内容に反映させていくこととする。

基礎編 紙上Live講義（シナリオ集）

- ・ 国民年金制度の概要、全体像を理解できる講義シナリオを作成する。
- ・ 窓口業務の合間などに読んでいただけるように、実際の講義で画面に展開するスライドと対応する講義ナレーション原稿を見やすいレイアウトで配置し、動画・音声を視聴できない場合であっても同様の学習効果が得られるようにする。



基礎編 講義動画

- ・ 最終成果物として全12テーマの講義動画を作成する。
- ・ 受講のしやすさを考慮して1講義最大15分以内とし、必要に応じて1テーマを複数のチャプターで収録する。



基礎編 テキスト（「参考書」）

- ・ 基礎編テキストは、国民年金法を中心に、国民年金事務に関係の深い同施行令・施行規則等を盛り込み、国民年金事務担当者が実務上の『参考書』として活用できるものとする。
- ・ 国民年金法の各条文について逐条解説型の説明を掲載し、制度趣旨や沿革、関連法規など本質的な理解を助けるものとする。



10 修正方針（基礎編～動画カリキュラム）

- 基礎編講義では、国民年金制度の全体像を短時間で理解できるダイジェスト版講義と、テーマごとの重要ポイント解説講義を作成する。
- 全テーマの講義動画（最大15分を1講義とする）と、講義シナリオおよび動画スライド画面を組み合わせた紙上Live講義を作成する。

紙上Live
講義
& 講義動画

基礎編 カリキュラム I

	テーマ	項目	(案) 講義時間	
1	概要①【ダイジェスト版①】	社会保険制度の概要と国民年金	1分	計15分
		国民年金の被保険者	2分	
		国民年金の被保険者の資格と喪失	3分	
		国民年金の被保険者期間・届出	2分	
		国民年金の保険料	3分	
		国民年金保険料の免除	6分	
2	概要②【ダイジェスト版②】	保険料の追納・後納保険料	3分	計15分
		給付の概要	1分	
		老齢基礎年金	9分	
		障害基礎年金	3分	
		国民年金の遺族基礎年金	3分	
		独自給付他	4分	
3	被保険者	強制加入被保険者	6分	計15分
		外国人	2分	
		被保険者区分の主な変遷	1分	
		任意加入被保険者	5分	
		被保険者区分のまとめ	1分	
4	資格の取得と喪失	強制加入被保険者の資格取得の時期	4分	計10分
		強制加入被保険者の資格喪失の時期	2分	
		任意加入被保険者の資格取得日	1分	
		任意加入被保険者の資格喪失日	2分	
		特例による任意加入被保険者の資格取得と喪失	1分	
5	被保険者期間と届出	期間計算	2分	計10分
		種別の変更	1分	
		第1号被保険者の届出	1.5分	
		任意加入被保険者の届出	1.5分	
6	保険料・免除①	基礎年金の財源	1分	計15分
		保険料の算出方法	2分	
		保険料の納付方法	2分	
		免除制度の役割	2分	
		法定免除	8分	
7	保険料・免除②	申請免除	4分	計15分
		若年者納付猶予制度	4分	
		学生納付特例制度	4分	
		免除や猶予と未納の違い	1分	
		追納	1分	
		後納	1分	
			1分	

※ タイトル・時間配分等変更される場合がありますので、予めご了承ください。

基礎編 カリキュラム II

	テーマ	項目	講義時間	
1	老齢基礎年金①	支給要件の原則	3分	計15分
		支給要件の特例	5分	
		合算対象期間	4分	
		受給資格期間短縮の特例	3分	
2	老齢基礎年金②	基本年金額	3分	計15分
		物価スライド特例措置による年金額	3分	
		振替加算	2分	
		支給の繰上げ	3分	
		支給の繰下げ	3分	
		失権	1分	
3	障害基礎年金①	一般的な障害基礎年金の支給要件	7分	計15分
		事後重症による障害基礎年金	4分	
		基準障害による障害基礎年金	4分	
4	障害基礎年金②	20歳前傷病による障害基礎年金	5分	計15分
		経過措置による障害基礎年金	3分	
		特例措置による障害基礎年金	3分	
		併合認定	4分	
5	障害基礎年金③	年金額	4分	計15分
		子の加算額	4分	
		支給停止	2分	
		20歳前傷病による障害基礎年金の支給停止	3分	
		失権	2分	
6	遺族基礎年金①	支給要件	5分	計15分
		遺族の範囲	5分	
		年金額	5分	
7	遺族基礎年金②	年金額の改定	6分	計15分
		失権	3分	
		支給停止	6分	
8	独自給付	付加年金	4分	計15分
		寡婦年金	4分	
		死亡一時金	4分	
		脱退一時金	4分	
			3分	
9	未支給年金 及び 生計維持関係	未支給年金	4分	計15分
		生計維持及び生計同一に関する認定要件	4分	
		事実婚関係の認定要件	3分	
		重婚関係の認定要件	3分	
10	時効	基本権及び支配権の消滅時効	4分	計15分
		時効の援用	3分	
		年金時効特例法の施行前と施行後の取扱いについて	8分	
11	不服申立て	審査請求・再審査請求	3分	計15分
		届出等	3分	
		被保険者に関する各調査・資料の提供等	6分	
		機構への事務の委任等	2分	
		罰則	1分	
			1分	

※ タイトル・時間配分等変更される場合がありますので、予めご了承ください。

11 修正方針（実務編）

■ 任意アンケート調査及び重点ヒアリングの結果を踏まえ、実務編研修は以下のラインナップにて動画と紙上Live講義の制作を進める。

資 格	免 除	老 齢	障 害	障 害	遺 族	未 支 給	そ の 他
業務支援ツールの使い方	業務支援ツールの使い方	業務支援ツールの使い方	業務支援ツールの使い方	受付・点検事務の手引き	業務支援ツールの使い方	業務支援ツールの使い方	業務支援ツールの使い方
ケーススタディ	ケーススタディ	ケーススタディ	ケーススタディ ケーススタディ		ケーススタディ		—

「使い方」

- ✓ お手続きガイドの各カードごとに記載内容の概略と説明時の注意点を解説する研修であったが、概ねお手続きガイドの解説としては妥当との意見を踏まえ、基本的な方針は修正せずに作成を進める。
- ✓ 個別に指摘をいただいた箇所等を修正するとともに、モデル事業を踏まえた業務支援ツールの修正に応じて研修にも反映させる。

「ケーススタディ」

- ✓ モデル事業で作成したケースについては基本的なケースとして妥当との意見が多かったが、一部実際の実務とは異なる対応との指摘も出たため、該当するシナリオ部分を修正のうえ研修を制作する。
- ✓ 障害基礎年金については他のパターンのケーススタディも要望する意見が挙がっているため、特に取扱件数の多い「20歳前傷病による障害基礎年金の請求」についてケースを追加する。
- ✓ 遺族基礎年金、死亡一時金・寡婦年金、未支給年金については、取り扱うケースについて具体的な要望はなかった。未支給年金の取り扱い件数は多い一方、遺族基礎年金や死亡一時金・寡婦年金の受付件数は少ないことから、「死亡」をテーマに遺族基礎年金と未支給年金を扱うケースを1事例作成する。